2019 年 6 月 29 日 日露首脳会談後の日ロ共同記者発表 プーチン大統領発言 全文

訳：上野 俊彦

尊敬する総理大臣、皆様。

まずはじめに、親愛なる晋三、「G20」サミットの成功を改めてお祝いしたいと思います。

このような大規模な国際イベントに合わせて日本に招いてくれたことに感謝したいと思います。ご承知の通り、私たちは先ほど「日本におけるロシア年」「ロシアにおける日本年」の閉会式に出席してました。

さらにこのあと、露日協力に積極的に関与している閣僚、省庁関係者を交えた拡大会合が予定されています。日本の総理と、二国間の重要な諸問題についてかなり詳細に検討し、焦眉の国際情勢および地域情勢についても意見を交換したことを、とくに指摘しておきたいと思います。たったいま署名された共同文書は、さまざまな分野での協力の拡大に向けられたものです。

ロシアにとって日本は、重要なパートナーであり、ロシアと日本は、善隣友好および互いの利益の考慮の原則に基づく互恵関係を構築しようと努力しています。両国間では緊密な政治対話が続けられています。１か月前には定例外務・防衛閣僚協議「２＋２」が行われました。定期的に安全保障会議のラインでの協議が行われているほか、議会間交流も続けられています。

２国間の貿易も前進しています。昨年の貿易高は 17%増加しました。今年の１月から４月までの貿易高はさらに７％増加しました。このことは、ロシアと日本の政府間委員会が効率的に機能し、安倍総理が提案した８項目の協力プランとロシアの貿易経済協力拡大戦略プロジェクトが実現されていることを意味しています。

本日、これらの２つの重要な文書に沿ってさらに協力を進めていくとの共同発表が採択されました。とりわけ、日本の技術や投資がロシアの国家プロジェクトの実現のために導入されることになります。私たちは、日本の企業がロシアとの協力に関心を示し続けてくれていると見ています。現在、日本の約 270 社がロシア市場に進出しています。ロシアと日本の投資ファンドや投資プラットフォームはそのよさを見せてくれています。

日本の企業や投資家は、最近おこなわれたサンクト・ペテルブルク国際経済フォーラムに積極的に参加してくれました。ことし９月にウラジオストクでおこなわれる予定の東方経済フォーラムで安倍総理や日本の皆さんとまた会うことができればうれしく思います。

２国間協力の基礎となる分野はエネルギー分野です。日本の企業は「サハリン２」プロジェクトに参加しています。先ほど、三井物産と JOGMEC＝石油天然ガス・金属鉱物資源機構の、液化天然ガス開発プロジェクト「アークティック（北極）LNG-2」への参加に関する重要な合意文書が調印されました。この事業の投資額はおよそ 30 億ドルにのぼります。

「ロスアトム」は、福島の原発事故の除染事業を継続しています。さらに、第三国も含めた使用済み核燃料の再利用に関する共同事業についても検討されています。ハイテクの分野での２国間協力も強化されています。日本の「キヤノン」のロシアでの高度医療機器製造にむけた合意もなされました。

日本とヨーロッパをつなぐ新たな高速データ通信にむけたプロジェクトとして、ナホトカから新潟までをつなぐ海底ケーブルの整備が検討されています。

輸送、インフラの分野での協力が発展しています。シベリア鉄道経由のコンテナ輸送の試験運用では、ヨーロッパ市場への日本製品の供給の拡大にとって、このルートが低コストで効率的だということが証明されました。

地域間の交流拡大にむけて、2020 年をロシアと日本の地域交流年と位置づけることについて、きょう、総理大臣と合意しました。

もちろん、安倍総理とは平和条約に関する問題について議論を行い、双方の外相が両国にとって複雑で繊細な問題について、具体的な対話を充実させてきたこと、この対話をこれからも続けることについて、述べました。ロシアと日本の関係を質的に新しいレベルに引き上げるための困難な作業がまだ残っています。

この作業の成功は、露日両国民の信頼関係と善隣関係を強化し、いちばん難しい問題に関する双互に受け入れ可能な解決策を見い出すための条件をつくり出すものです。

これとの関連で重要なのは、島々での共同経済活動の実現に向けて、いくつかの進展があったことです。すでに合意した５つのプロジェクトの中で、２つをパイロットモデルとすることで合意しました。近くパイロットモデルに関して動きが出ることになるでしょう。

喫緊の国際情勢については、とくに朝鮮半島情勢について話し合いました。私は４月 25 日にウラジオストクで行われた朝鮮民主主義人民共和国のキム・ジョンウン（金正恩）委員長との首脳会談の結果について、安倍総理に報告しました。

朝鮮半島の核およびロケットの問題は、平和的な政治・外交手段でのみ解決が可能です。すべての関係諸国による建設的な対話が必要です。そうすることによってのみ、私たち共通の地域である北東アジアの安全と繁栄が可能となるでしょう。

最後に、総理大臣と日本の皆さんに対し、手厚いおもてなしと充実した対話に改めて感謝を申し上げたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。

＜http://kremlin.ru/events/president/news/60860＞